

(小学校) 体 育 科

1 改訂の趣旨・要点について

- 運動領域においては、全ての児童が、楽しく、安心して運動に取り組むことができるようにし、その結果として体力の向上につながる指導等の在り方について改善を図る。その際、特に、運動が苦手な児童や運動に意欲的でない児童への指導等の在り方について配慮する。
- 保健領域においては、「身近な生活における健康・安全についての基礎的・基本的な『知識・技能』、『思考力・判断力・表現力等』、『学びに向かう力・人間性等』の育成を重視する観点から、内容等の改善を図る。その際、自己の健康の保持増進や回復等に関する内容を明確化するとともに、『技能』に関連して、心の健康、けがの防止の内容の改善を図る。また、運動領域との一層の関連を図った内容等について改善を図る。
- 体力の向上については、心身ともに成長の著しい時期であることを踏まえ、「体づくり運動」の学習を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わえるようにするとともに、健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性を認識させ、「体づくり運動」以外の運動に関する領域においても、学習した結果としてより一層の体力の向上を図ることができるようにする。

2 目標及び体育科における見方・考え方

【目標】

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

【ポイント】

○ 「体育の見方・考え方」とは・・・？

- ・ 生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」である。
- ・ 小学校においては、運動やスポーツが楽しさや喜びを味わうことや体力の向上につながっていることに着目するとともに、「すること」だけでなく「みること」、「支えること」、「知ること」など、自己の適性等に応じて、運動やスポーツとの多様な関わり方について考えることを意図している。

○ 「保健の見方・考え方」とは・・・？

- ・ 疾病や傷害を防止するとともに、生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ、「個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること」である。
- ・ 小学校においては、特に身近な生活における課題や情報を、保健領域で学習する病気の予防やけがの手当の原則及び、健康で安全な生活についての概念等に着目して捉え、病気にかかったり、けがをしたりするリスクの軽減や心身の健康の保持増進と関連付けることを意図している。

3 内容についての主なポイント

○ 運動領域

発達の段階のまとまりを考慮するとともに、基本的な動きや技能を身に付け、運動を豊かに実践していくための基礎を培う観点から、発達の段階に応じた指導内容の明確化・体系化を図った。各学校においては、育成を目指す資質・能力の系統を踏まえ、「何を教えるのか」とともに、「どのように指導するか」を整理し、学習を進めることが求められる。

○ 保健領域

身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容を重視し、健康な生活を送る資質や能力の基礎を培う観点から、小学校においては、これまでの内容を踏まえて、「健康な生活」、「体の発育・発達」、「心の健康」、「けがの防止」及び「病気の予防」の五つの内容とした。

○ 内容の改善事項及び改善理由等

領域・学年	改善事項	改善理由等
体づくり運動系 高学年	「体力を高める運動」 →「 体の動きを高める運動 」	新体力テストの数値を高めることよりも、体の動き（体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力）を高めることが目的であるため。
陸上運動系 全学年	児童の実態に応じて 投の運動（遊び） を加えて指導することができる。	「狙って投げる」、「加減して投げる」ボール運動系と違い、遠くに力一杯投げることで投能力を向上させることができる。 ※円盤投げや砲丸投げにつなげるためではない。
水泳運動系 高学年	現行の「クロール」、「平泳ぎ」に「 安全確保につながる運動 」を新たな内容として追加。	安定した呼吸の獲得を意図した運動
ボール運動系 中学年	「ゴール型ゲーム」については、 味方チームと相手チームが入り交じって得点を取り合うゲーム及び障地を取り合うゲーム を取り扱うものとする。	現行ではどちらかでよかったが、両方とも取り扱う。 【理由】低学年の「鬼遊び」からつながる系統であることや、現行においてタグラグビーやフラグフットボールの実践が増加したこと
保健 高学年	「心の健康」、「けがの防止」の指導内容に 技能 を追加 ・不安や悩みなどへの対処→ 体ほぐしの運動や深呼吸を取り入れた呼吸法などを行うこと ・けがの手当→ 簡単な手当	

4 指導計画作成と内容の取扱いについての配慮事項について

【指導計画作成上の配慮事項】

○ 単元（題材）など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るようにすること。

【内容の取扱いについての配慮事項】

○ 運動を苦手と感じている児童や、運動に意欲的に取り組まない児童への指導を工夫するとともに、障がいのある児童などへの指導の際には、周りの児童が様々な特性を尊重するよう指導すること。

○ 筋道を立てて練習や作戦について話し合うことや、身近な健康の保持増進について話し合うことなど、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促すための言語活動を積極的に行うことに留意すること。